ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
EU11E201	教育実践研究報告書(Report on Research in Educational Practice)	省察科目	

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	教育学研究科	通年		氏名　全教員 E-mail　kumamaru@oita-u.ac.jp（熊丸：教職大学院教務部会）　内線　7550（熊丸：教職大学院教

授業の概要	各自の研究テーマの総括を通して，実習における実践研究と教育体験の理論的分析に取り組み，学校現場の課題の解決に資する提言を行う。そのことを通し、理論と実践の往還の観点から，２年間の学習・研究を振り返り，報告書にまとめる力を養う。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	各自の研究テーマの総括を行うことができる。					○					
目標2	実習における実践研究や教育体験等を理論的に分析することができる。			○		○	○				
目標3	学校現場の課題の解決に資する提言をすることができる。	○				○	○				
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	テーマの設定1
2	テーマの設定2
3	内容の検討1
4	内容の検討2
5	内容の検討3
6	内容の検討4
7	内容の検討5
8	報告書の作成1
9	報告書の作成2
10	報告書の作成3
11	報告書の作成4
12	報告書の作成5
13	報告書の作成6
14	報告書の作成7
15	報告書の作成8

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	調査，発表，文章作成	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	実習校での実践を解釈するために必要な先進事例や文献等の調査を行う（10時間）。 実習校での実践を文章化する（10時間）
事後学修	指導を踏まえ，文章を修正する（15時間）。

教科書	教科書を指定しない。
参考書	参考書を指定しない。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
「教育実践研究報告書審査会」のプレゼンテーション	20%	○	○								
「教育実践研究報告書審査会」での質疑応答	20%		○								
教育実践研究報告書の内容	60%	○	○	○							

注意事項	・教員の指示に従い、授業の準備と復習を行うこと。 ・報告書作成にあたって学生は教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努
備考	
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	内田(小・中・盲)/清國(高)/久保(中・義)/河野(小)/後藤(小・教委)/佐藤(臨床心理士、学校心理士)/高橋(特)/森竹・渡邉(中、教委)/安田(教委)
実務経験をいかした教育内容	学校の教諭（内田、清國、河野、森竹、後藤）、教頭（高橋）、校長（渡邉、久保）や教育委員会事務局の指導主事（森竹、後藤）、教育事務所長（渡邉、安田）及び学校カウンセリング（佐藤）等の実務経験に基づき実習における実践研究と教育体験の理論的分析や，学校現場の課題の解決に資する提言に関する指導を行う。